



平成21年度に特に注意を要する病害虫

(平成20年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫)

てんさいの西部萎黄病



- 平成20年に十数年ぶりに多発しました。
- 十勝、網走、胆振などの主要産地で発生が確認されています。
- モモアカアブラムシが伝播するウイルス病です。

○ほうれんそう、はくさい、キャベツ、ブロッコリーなどの野菜やてんさいの茎葉にウイルスが感染するので、てんさいの苗を仕立てる前に、**越冬したこれらの寄主作物を処分**することが重要です。また、**育苗期の殺虫剤苗床灌注**も有効です。

てんさいのアシグロハモグリバエ (主産地での発生地域拡大)



- 平成20年に網走支庁でも発生しました。冬季が寒冷な地域でも発生が拡大しています。
- 施設内で越冬、春に増加し施設外に進出、夏に露地作物で被害が多発し未発生地域へ拡大していると予想されます。
- これまでの発生の有無に関わらず**施設では春以降、露地では7月以降、食痕や潜り痕に注意し、適切な防除を実施**してください。

いちごの炭疽病



- 平成19年に道内で既発の病原菌よりも、**病原性の強い菌によるイチゴ炭疽病が発生**しました。
- 病原菌はグロメラ・シングラータ(またはコレトリカム・グロイオスポリオイデス)と呼ばれ、他府県で大きな被害を与えています。

○苗の移入によって道内に持ち込まれる事例が多く、本菌が道内に定着すると大きな被害をもたらすことが予想されます。
○**疑わしい場合は農業改良普及センターに相談し、病害の診断・防除などの対応を行ってください。**

各種作物のヘリキスジノメイガ



- 平成20年8月中旬頃からヘリキスジノメイガの幼虫による作物被害が日本で初めて観察されました。
- 成虫は体長約15mm、前翅は褐色で外縁に黄褐色の斑紋が一系列についています。
- 幼虫の体長は老齢でも20～25mm、黒色に近い暗緑色です。
- 大豆、てんさい、にんじん、かぼちゃ、コスモス、マメ科牧草などで幼虫の食害が確認されました。
- 春季以降に成虫を発見した場合には病害虫防除所にご連絡ください。**



New! 新たに発生の認められた病害虫 (詳しくは病害虫防除所ホームページをご覧ください)



みつばの立枯病



にらの白色葉腐病



ぶどうのオウトウショウジョウバエ



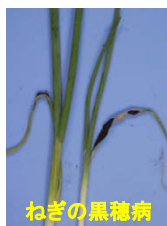
オクラの灰色かび病



ばれいしょの紅色斑点病



ブルーベリーの灰かび病



ねぎの黒穂病



セルリーの腐敗病



オクラのヒラズハナアザミウマ



ねぎのリゾクニア葉柄腐敗病



ほうれんそうのヒメモグリハナバエ



にらの褐色葉枯病



ブロッコリーのピシウム腐敗病



ねぎのアシグロハモグリバエ



サントーダの葉斑モザイク病



ライラックのオリブアナアキゾウムシ



ブロッコリーの株腐病



セルリーの斑点病
チオファネート誘導耐性菌



PVYによるピーマンのモザイク病



ながいものカンザワハダニ

ほかに
●「いちごの炭疽病」
●「各種作物のヘリキスジノメイガ」

道立中央農試 生産環境部・予察科
住所: 北海道夕張郡長沼町東6線北15号
電話番号: 0123-89-2080
HP: <http://www.agri.pref.hokkaido.jp/boujoshou/index.html>
e-mail: boujo@agri.pref.hokkaido.jp